

【研究概要】

諸外国と比較し、日本では向精神薬多剤投与であることが問題となっている。近年、この問題に対して、抗不安薬、睡眠薬、抗うつ薬、抗精神病薬を3剤以上投与する場合には地方厚生局に報告を要するという形での是正も行われるようになった。向精神薬を適正に使用することに対しては社会的にも求められている重要な課題である。向精神薬の適切な処方において医師側のどのような要因が重要であるのかということに関する調査はこれまでに行われていない。このため、本研究が計画された。